

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 7 年 3 月 24 日

公表: 令和 7 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘蒲郡

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広くゆとりがある。 十分なスペースがある。	
	2 職員の配置数は適切である	○		利用児の人数や遊びなどに合わせて配置の職員を考えている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	△		玄関やウッドデッキの段差には注意が必要。自立課題などをカードで貸し借りしたり、食事の際には机を移動させたりと分かりやすいようにしている。 その子に合わせた椅子等、工夫がされている。	配慮が必要な場面では、危険の無いよう見守ったり補助を行ったりしていきます。 視覚支援も補助具も、発達の状態や本人が過ごす様子を見て、一人ひとりに合わせた形で取り入れています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の掃除に加え、その場の遊びに合わせて物の配置などを変えている。	利用児の動きや遊びに応じて配置を変えるだけでなく、安心して過ごせる環境として絵本やおままごとのコーナー等を作ったりしています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員同士で1日の出来事を話したり、次の活動を伝えたりしている。 職員会議やパート会議を月1回行うことで、職員が参画できるようにしている。	常勤の職員を中心に、できる限り多くの職員が集まって利用児の様子を共有したり支援方法の検討や振り返り等を行うようにしています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○		外部評価は受けていないので、今後検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		必要だと思う内容の研修には積極的に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		様々な職員の視点を聞き、ニーズや課題などを話し合うようにしている。 送迎時やモニタリングで保護者の思いを受け止めた上でアセスメントを行い、計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		月末に翌月の支援プログラムを立てている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用児の様子、興味に合わせていろいろな遊びが経験できるように考えている。 1人の意見にならないようにしている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1つの遊びに固定化しないよう、季節や手先の遊び、集団遊びなどを取り入れている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		職員同士話し合いを重ねて、児童発達支援計画を作成している。 個々に合わせた支援をその都度考え、その上で個別や集団の活動を取り入れるようにしている。 集団活動が難しい利用児には、配慮しながら支援をしている。	集団での活動が難しい利用児でも、同じような内容を個別でできるようにしたり、どれくらいの集団なら参加ができるかを判断し環境を作ったりして、経験の機会は持てるようにしています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の活動を伝えながら、ねらいや(利用児の)個人的に伸ばしていきたい所などを確認している。 分かりやすいようにホワイトボードを使って共有することもある。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		昼や夕方などの時間に振り返りながら、次に試していきたいことなどを伝え合っている。 ケア記録を残し、後日共有する。	できる限りその日のうちに振り返りや気づきの共有を行うようにしています。その日のうちにできない場合も、記録に残してできるだけ早く共有するようにしています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録の他、気になったことなど職員に話したり、ケア記録に記したりして振り返るようにしている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	△			毎月『児童発達支援連絡会議』にて、関係機関と共に支援へ結びつける為の必要な情報共有や調整を行っています。(年度末には報告も行っていきます)	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	対象者なし		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	対象者なし		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		月に1度、関係機関連携会議を行い、支援や様子について話し合っている。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	学校への連携はしていない。今後、必要な場合は連携をしていきたい。		現在移行支援に伴う情報共有等の連携が取れていないので、今後必要に応じて行っていきたくと思います。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		併設されている「むつみの丘」の子どもたちとの交流を大切にしている。		リズム遊びなど一緒にできる活動は積極的に合同で行えるよう打ち合わせをしています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○				令和6年度は7月と2月に『蒲都市障害者自立支援協議会専門部会 子ども部会』へ参加しました。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の出来事その他、家での困りごとなども聞き、共通の支援ができるように心掛けている。送迎の際、様子を伝えたり聞いたりする。		
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			ペアレント・トレーニングとしては行っていませんが、必要な方へはその都度一緒に考えたり、施設等でやっている支援方法をお伝えしたりしています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者に個別支援会議へ参加してもらうことで、内容確認をしている。		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて時間をもち、話し合いを重ねている。常に相談しやすい環境を作り、要望があればいつでも応じるようにしている。		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会等は開催していないが、2~3か月に1度の親子イベントで保護者同士の交流を深めている。		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		いつでも相談しやすい関係性を作っている。		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		クラウドサービスによる配信で、常に情報を公開している。		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きのロッカーに収納している。		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今のところできていないが、今後計画をしていきたい。		見学への受け入れは常時行っていますが、事業所の行事への招待等については行っていませんので、どのような形なら実施が可能か今後検討していきます。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		職員は定期的に確認をしている。訓練をしている他、なるべく目に入りやすいようにマニュアルなどすぐに見られる場所に置いている。	保護者へは、契約時に目を通してもらうなど、周知の方法を検討します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		併設されている「むつみの丘」と一緒に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		薬の紙を月に1回提出している。契約時に確認しており、何かあった場合は教えてもらうようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーについて契約時に詳しく聞き、対応している。医師の指示書をもらうほどの利用児はいない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	今はまだ行う必要性のある利用児がない為、記載はしていない。	現在対象者になり得る利用児はいませんが、身体拘束に関する職員の知識向上には努めていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。